



向島藤の木小学校 小中一貫教育校創設検討協議会だより

※「向島藤の木小学校 小中一貫教育校創設検討協議会」が発行

学校運営協議会を母体とする

小中一貫教育校創設検討協議会が発足しました！

京都市では、関係地域からの要望書に基づき、統合・小中一貫教育校創設が計画されるため、P T A決議の内容を地域で協議し、地域での合意形成を図っていく必要があります。

そのため、向島藤の木小学校学校運営協議会では、P T Aからの要請を受け、臨時の会議を持ち、学校運営協議会理事を中心とする“小中一貫教育校創設検討協議会”を設置することとしました。

今後、検討協議会におきましては、教育環境の充実を願うP T A決議を重く受け止め、子どもたちの健やかな成長を第一に考え、検討・取組を進めてまいりますので、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

< P T Aの取組経過の概要 >

- 令和4年5月から、向島藤の木小P T Aは、児童数減少のため、今後の教育の在り方について協議し、令和5年5月に「向島東中学校区における小中一貫教育校創設に向けて取組を推進すること」を決議される。
- 向島藤の木小P T Aから令和5年8月に向島小P T A、9月に向島東中P T Aに対して、小中一貫教育校創設の検討を依頼され、向島小P T A、向島東中P T Aにおいても検討が開始される。
- 令和7年2月、向島小P T Aは「向島東中学校区における小中一貫教育校創設に向けて取組を推進すること」を決議される。
- 令和7年3月、向島東中P T Aは臨時総会を開催し、同様に決議される。

< 向島藤の木小学校 小中一貫教育校創設検討協議会 委員名簿（敬称略） >

○向島藤の木小学校運営協議会

山内 忠敏	理事長	栗田 久美	理事	小倉 真由美	理事
竹内 敬一郎	理事	珍田 幸夫	理事	檜 須美子	理事
松田 恵三子	理事	明神 義弘	理事	森 貴和子	理事
山崎 真穂	理事	雪丸 敏明	理事		

○向島藤の木小学校

廣橋 善樹	校長	井出 浩史	教頭
-------	----	-------	----

「向島藤の木小学校 小中一貫教育校創設検討協議会(第1回)」開催

4月25日に第1回目の会議を開催しました。

「京都市の小中一貫教育校」(次ページ参照)などの理解を深めた後、PTAからの創設案などの検討を行いました。



●代表・副代表を決定しました！

検討協議会のメンバーから、代表に山内理事長、副代表に竹内理事を選出しました。

●向島東中学校区における小中一貫教育校の創設(案)について検討しました！

3校PTAから提示の創設案を確認しました。創設案の内容は、2地域で合意して決定することですが、今後、向島藤ノ木地域の考えをまとめていく必要があるため、検討を行いました。

向島東中学校区における小中一貫教育校の創設(案)

- 向島小学校と向島藤の木小学校を統合し、向島東中学校と合わせた施設一体型・小中一貫教育校の創設を目指した取組を推進する。
- 小中一貫教育校の設置箇所は、現向島東中学校敷地とする。
- 小中一貫教育校の創設に向けた様々な検討課題(通学安全、校名、校歌、校章、標準服、PTA組織など)については、関係地域で合意に至り統合要望書が提出されれば、地域・保護者・学校等で構成する協議会において検討のうえ、決定していく。

●今後の進め方について

- ・検討協議会だよりを発行し、地域のみなさまへ周知します。
- ・お寄せいただいたご意見を踏まえ、検討協議会が地域の考えをまとめ、「小中一貫教育校創設の取組を進めるのか、進めないのか」決定します。

●意見交換(主なもの)

- ・小中一貫教育校になれば、6年生の卒業式はなくなりますか。
⇒1～9年生までの子どもが一つの施設で学ぶ小中一貫教育校では、卒業式は9年生で行います。各学校の判断により6年生段階での卒業式に代わる前期課程修了式などを行うケースがあります。
- ・自治会がないところもありますが、第1回目の会議の周知は全戸配布が望ましいと思います。

小中一貫教育について

京都市では、小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を通して子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」に向けて「小中一貫教育」を全市で実施されています。

- 9年間の明確な教育目標
- 系統的なカリキュラム
- 継続性・一貫性のある指導体制



令和6年9月に保護者向け学習会「小中一貫教育校を知ろう！」が開催され、向島東中学校PTAでは、その内容をたよりで発行されています。今回、たよりの一部をピックアップして以下のとおり紹介します。

★「向島東中学校PTA特別委員会だより第4号」（令和6年12月発行）から

「なぜ、いま小中一貫教育なのか？」

1 いまの現状

- ・子どもの数がとても減ってきています。
- ・教え込む教育から自ら学ぶ教育に向けて、学びの在り方も変わってきています。

2 子どもの身体的発達の早期化

- ・身の回りのお大人に反発を感じる児童の割合が小学4年生から5年生にかけて急激に増加します。このことは思春期の訪れが早くなり、小学5・6年生で生じる様々な問題の背景になっていると考えられます。

3 「中1ギャップ」を克服するために

- ・中学進学後、学校へ適応できないケースが増加します。学習上、生徒指導上の段差を適切に整え、小学校から中学校への接続をより円滑にすることが必要です。

⇒ これからの社会を見据えて、小学校・中学校の9年間でどんな子どもを育てるかを考え、小学校及び中学校の教員が目標の実現に向けて取り組む教育「小中一貫教育」が求められています。

「施設一体型の小中一貫教育校（＝義務教育学校）って？」

1 小中一貫教育校とは

- ・ 1～9年生（小学1年生～中学3年生）までの児童生徒が通う学校です。
- ・ 「施設一体型の小中一貫教育校」はより効率的に小中一貫教育が実施できます。

2 向島秀蓮小中学校の場合

- ・ 子どもの身体的発達の早期化、小学校5年で多くなる学習のつまづきなどの課題解決に適しているステージ制（1～4年生、5～7年生、8・9年生の3ステージ）を実施しています。
- ・ 同一施設の利点を生かし、可能な限り、教科担任制など教科ごとの指導の充実を図っています。



3 小中一貫教育校での実際の子どもたちの様子

- ・ 先輩にあこがれ、やさしさにあふれています。
- ・ 小学生は、上級生に憧れ、成長のモデルとし、また、中学生は、下級生を思いやり、いたわり、支援をしていく存在になります。

（参考）向島東中学校区3校の児童生徒数について

- ・ 令和7年4月時点（○数字は学級数（育成学級数は含めず） 計の[]は前年）

学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
向島小	26①	25①	42②	38②	32①	42②	205⑨[201⑨]
向島藤の木小	11①	12①	18①	15①	16①	16①	88⑥[109⑥]
向島東中	37②	59②	46②	—	—	—	142⑥[163⑥]

検討協議会での検討・取組内容等は、この「協議会だより」により周知します。
地域のみなさまからのご意見をお聞きしながら、検討を進めますので、ご意見やご質問がございましたら、向島藤の木小学校までお寄せください。

向島藤の木小学校 TEL：075-623-0046 FAX：075-623-0049

E-mail：fujinoki-s@edu.city.kyoto.jp